令和5年12月31日で火災による死者ゼロ2500日を達成!!(矢口消防署)

学校防災活動拠点訓練

避難所だけでなく、「情報拠点」「地域活動拠点」の機能も併せ持つ地域の防災活動拠点となる学校で防災訓練を行いました。

矢口中学校　11月４日(土)

夜間、震度５強の地震が発生。矢口中学校防災活動拠点構成員が学校に参集し、避難所としての点検が済み、矢口中学校を避難所として迅速に開設する訓練を行いました。

先ずは「受付・誘導班」「設営班」「トイレ・照明班」の３班を編成し避難所の開設準備を行いました。また、物資管理部ではアルファ化米の炊き出しを実施しました。

今回は若者の防災意識を高める意味で矢口中学校の生徒さん達の参加が有り、設営班と一緒に体育館で住居空間の区割りやプライベートテント(授乳用、更衣室)の張り方などを行いました。最後に生徒さん達を避難者に見立てて受入・誘導の訓練を行いました。日頃の準備がいざという時に役立つので有意義な訓練でした。

避難者役の生徒が整列する様子

矢口西小学校　11月18日(土)

喉元過ぎれば熱さを忘れる、は世の習い。明治の大水害、大正の関東大震災は今や昔となりつつ令和の今、災害への対応力を少しでも蓄積する努力は必要だ。11月18日に行われた訓練は、回を重ねるごとに知識と経験が積み重なり、より実際の場面を想定した動きの完成度が高くなったように感ぜられた。対応の精度が高まると共に綻びも見つかった。完璧な準備は出来ないまでも、平時に考え得る災害対策はできるだけ抜かりのない形にしておきたいものである。特に矢口西小は、改修工事も進んでいて備品倉庫や被災者受け入れ場所も変更を重ねることになる。矢口特別出張所の方々との連携を密にして、さらに担当部署それぞれの臨機応変な対応力が、現場の混乱を未然に防ぐことになると思われる。

検温スペースの設置

多摩川小学校　11月25日(土)

矢口消防署から３名参加していただき、講話と消火器訓練がありました。関東大震災で死者の９割が火災で亡くなっています。地域の初期消火は大切であり、消火器の取り扱いでは自分の避難路を確認して噴射する訓練でした。今回の訓練は11月10日に行った図上訓練の内容確認です。想定は、震度７の首都直下型地震、18時発災で停電です。①受付開設(受付班)②避難スペース開設(設営班)③照明設置(トイレ・照明班)のグループに分かれ、１時間30分の作業に取り組みました。

作業を終えた頃の外は真っ暗。17時から各グループ毎に３つの現場、投光器の見え方や設置場所、廊下の明るさ確認に回りました。夜間の停電では明かりの確保と作業の大変さを実感。訓練の振り返りでは課題がいっぱい。消防署の方から「作業時の段差等による安全確保と訓練は継続です」と貴重な意見・提案がありました。

照明の設置訓練

自治会・町会防災訓練

秋に防災訓練を行った自治会・町会をご紹介します。また、10/９に東京サーハウス自治会、11/５にシエルズガーデン自治会においても訓練を行いました。

下丸子四丁目町会　10月22日(日)

下丸子余情公園で防災訓練を実施しました。

①消火器を用いた初期消火②応急救護とＡＥＤの取り扱い方③スタンドパイプの取り扱いと放水訓練を体験しました。

まず「火事だ！」と声をあげて周囲に知らしめること、消火放水するときには、火ではなく、**火元に放水すること**、との消防団による説明が印象的でした。防災意識のさらなる高揚や広報の強化などが今後の課題となりました。

消火訓練

応急救護訓練

アルス多摩川自治会　10月22日(日)

午前中にアルス多摩川自治会防災訓練を開催しました。

訓練参加者は各世帯全員に配布されているヘルメットを着用し、各種訓練に取り組みました。

訓練は消火器を用いた消火訓練や担架の利用方法、災害時のトイレや防災アプリの紹介等、身近で実践的な内容となるように工夫をしました。

子どもから大人まで参加者は皆、真剣な眼差しで訓練に臨んでおり、防災意識を啓発するとともに、有事の際に住人同士が連携して動くことの大切さを再認識した日となりました。

ヘルメットを着用した参加者の皆さん

編集委員長　岡﨑さちこ（今泉）　**副委員長**　安美留美津子（16号館）　**編集委員**　板垣トメ子（下丸子東）、藤本誠子（古市）、大内洋子（矢口北）

古市町会　11月５日(日)

関東大震災から100年を鑑み、震度７の首都直下型地震を想定し、基本的な訓練に臨みました。参加者総数は139名。

まちかど訓練(投てきパック、バケツリレー、三角バケツ、消火器での初期消火訓練)を各現場で行い、らくらく担架、リヤカー、車椅子などで東八幡神社境内に集結し、通報訓練、煙体験、家屋倒壊現場体験、心肺蘇生訓練をし、最後に市民消火隊による延焼防止訓練を実施しました。

矢口消防署・矢口特別出張所・矢口消防団第四分団のご協力を得て無事盛会に終了出来たことを感謝します。

ガスボンベ式発電機の操作訓練

下丸子三丁目町会　11月５日(日)

コロナも感染症法上で５類へと変更になり、ようやく日常生活が戻りつつある中、４年ぶりに三丁目町会も天祖神社境内で防火防災訓練を行いました。

消防署職員の方々、団員の方々の協力をいただきながら消火器の使い方や心肺蘇生法ＡＥＤの操作方法をドキドキしながら、声を掛けたり周りの方に応援をお願いしながら、心臓マッサージは止める事なく、緊張の連続で切羽詰まった雰囲気を皆さん今年も体験なさった事でしょう。

しっかり学んだ後で今回初めての炊き出しを行いました。仲間の協力を得て、火力も勢いよく心配なく豚汁が完成致しました。男性軍の味付け宜しく和やかに参加された皆さんに提供できました。緊張の後での豚汁、皆さんあたたまってもらえたでしょうか？お代わりもありますよ、来年も沢山の参加者を希みます。ご協力いただいた消防署関係の皆さんお世話になりましてありがとうございました。来年もどうぞ宜しくお願いいたします。

（岡部　昭子）

発電機の始動方法を確認

矢口南町会　11月19日(日)

矢口南町会の防災訓練が４年ぶりに氷川神社境内に於て実施されました。当日は好天にも恵まれ、矢口特別出張所の神谷所長、矢口特別支援学校の濱野校長をはじめ、地域の多くの方々にご参加いただき、防災に対する関心の深さを改めて思い知らされました。

訓練につきましては矢口消防署のご協力のもと、初期消火訓練、通報訓練、煙体験、そして婦人消火隊によるポンプ操法の発表、防災の講義が行われました。訓練は、参加者が３班に分かれ、全員がそれぞれ体験できる貴重な機会だったので、熱心に訓練を受け、質問をしたり、お隣同士で協力する姿が至るところで見られました。また、ガソリンを使用する自家発電機や簡易トイレへの関心が高く、両方の使用方法に耳を傾け、トイレには実際に座ったりしていました。

訓練を通して一番印象に残ったことと言えば、通報の際に正確な番地を伝えなければならない事、パニックになると自分の思い込みの名称で建物や場所を伝えがちになる事、通報センターは大手町にあるので、なるべく詳しく説明しないと素早い対応には繋がらない事。とにかく電柱や番地のプレートを見て、正確な情報を得る事の必要性を再認識いたしました。

関東大震災から１００年が経過し、いつ地震が起きてもおかしくない状況の中、また自然災害も多発している状況に地域コミュニティでの防災、家庭での防災の大事さが再認識された１日でした。

『備えあれば憂いなし』

（柳ケ瀬　恭子・森　章博）

放水訓練

多摩川ハイム　11月12日(日)

多摩川ハイム自治会では、「近助」（近隣の住民同士で助け合う）の訓練として毎年実施している安否確認訓練と、久しぶりに住民有志が一堂に会しての初期消火と心肺蘇生訓練を行いました。

地震の発生を想定した安否確認訓練では、毎年の訓練の積み重ねにより40分ほどで全住戸の安否状況を把握することができました。続いて行った消火器の取扱いとＡＥＤ装置を使った一次救命措置の訓練では、矢口消防署のご指導のもと、約50名の参加者が消火器やＡＥＤ装置の取り扱い方を学びました。

器具の操作や処置の動作の一つ一つに意味があることを学ぶことができ、とても有意義な訓練になりました。（新　武康）

ＡＥＤを使った心肺蘇生訓練

矢口二丁目16号館自治会　12月３日(日)

雨天時でも実施予定でしたが、暖かい日に恵まれました。９時には各階の幹事・委員が集まりました。４年ぶりの安否確認でしたが、事前に説明会を済ませた事と経験者も多く、当日はスムーズにスタートしました。

２階、３階は階段で、他の階は12階のグループからエレベーターで移動。各階４～５人のグループが２班に分かれ、１軒１軒戸を叩き「今、部屋に何人いますか」と声かけし、在宅のところにはクラッカー(非常食)を配布。日曜日の朝、９時過ぎで在宅248室、確認できなかったところは86室でした。安否確認後は公園に移動してカセットボンベ式の発電機とソーラーパネル充電器のセットを披露。発電機の操作では、90歳に近い女性も挑み、体験していました。

下丸子27号自治会　12月３日(日)

関東大震災100年という事と、この５年間に新入居の方が約40世帯増え「防災訓練を行った事がない」という声を聞き、４年ぶりに実施しました。今回は煙ハウス体験と消火器による初期消火を行い、99名の参加者が集まり無事に終える事が出来て良かったと思います。

（大坂　真須子）

初期消火訓練

渡邉克彦（リバプレ）、田﨑晃（矢口南）、阿部雅之（下丸子四丁目）、村越博志（下丸子三丁目）